



6 区 | 八木沢・芦原 行政区

地理



南相馬市から県道 12 号線を通り飯舘村に向かうと、最初に到着するのが、八木沢・芦原行政区である。八木沢・芦原行政区は、飯舘村の東部にあり、大倉・草野・小宮・関沢行政区に隣接する。また、飯舘村でトンネルを持つ唯一の行政区であり、全長約 2.3km にもなる八木沢トンネルが存在する。

文化・生活

かつての八木沢・芦原行政区は、水稻や畜産、インゲン豆、葉タバコの畑作などを手掛ける兼業農家によって成り立つ、活気ある農村だった。専業農家は一軒もなく、比較的小規模な農地を皆で支え合うのが当たり前の光景だった。畦の草刈りをはじめ、多くの作業を共同で行うことで、住民同士の強い連帯感が育まれていた。

経済的には、現金があまり流通していなかった時代には、南部鉄を製造していた八木沢銅屋や宿場が存在し、物々交換で生活が成り立っていた歴史もある。また、300 年の伝統を誇る田植え踊りが地域文化の核として大切に受け継がれてきた。冬には積雪が 1m に達することもあり、トンネルが開通するまでは雪が降れば道が閉ざされてしまうという厳しい自然環境と共に生きてきた地域だ。

東日本大震災と原発事故は、この地域の姿



門馬伸市 行政区長

長く役場の職員であり副村長を3期務めた。行政で働いてきた経験から国や県の財源をうまく活用しながら村を立て直してきた。

行政区長の思い：

他力本願ではなく、前向きに村のことを考える人を増やさなければならない。

を根底から揺るがしてしまった。震災前にこの地区には41軒120人が暮らしていたが、避難などを経て、2025年8月31日現在はずか7世帯12人にまで人口が激減。現在では子どもがいる世帯もなく、過疎化と高齢化が深刻な課題となっている。

この変化は生活の隅々に影響を及ぼしている。かつての主要産業であった農業は、担い手を失い、作物を生産する農家はほとんどいなくなっている。現在は、多くの農地が業者に貸し出されている。人口減少は文化の継承も危うくしており、地域の人々が月に数回集まって練習してなんとか復活させた田植え踊りも、若手を中心とした後継者不足からその維持が極めて困難な状況にある。

さらに、震災前と比べてサルやイノシシによる獣害が増加し、駆除隊の努力にもかかわらず被害は後を絶たない。駐在所が常駐でなくなるなど、防犯面での不安も住民の心に影を落としている。

しかし、こうした厳しい現実の中にも、未来への希望の光は灯されている。関沢行政区と合同で「塩の道を守る会」を結成して地域の歴史を守るなど、前向きな活動も生まれている。

店

事業所

震災後も半導体に関する事業所があったが、2025年3月に廃業している。商店等は震災前からない。

コラム

【農地所有適格法人ちーの】

農地所有適格法人「株式会社ちーの」が有休の土地を活用し食用米を生産している。県の振興公社が地主さん等の貸し手側と株（株）ちーのを繋いだ。貸し手側と借り手側のどちらにも利益（お金・お米）が生まれるwin-winな関係が構築できており、担い手不在の圃場には雑草が生い茂ってしまうので景観維持にも繋がっている。最初は約5haから始め、関沢行政区でもこのような活動が広がり、2025年度現在では約25haにまで拡大できている。



▲ 株）ちーのの事業の様子



▲ 塩の道の八木沢宿塩倉跡



▲ かつての製鉄所である八木沢銅屋。製鉄後に残る鉄滓が今も残っている



▲ 八木沢の山津見神社

▼ 芦原の熊野神社





▲ 八木沢トンネルの入口（原町方）



▲ 田植え踊りの様子（門馬区長提供）